

THE ART TIMES

No.6 特集『サーカス学誕生』
2010年6月発行予定



サーカス学ってあったらいいはずと思っていた。なにもサーカスを専門的に学問するわけではない。コントーションとか、ジャグリングを専門的に学問してもいいかもしれないけれど、ちょっと気持ち悪い。そんなことサーカスは望んでいない。サーカスの良さ、それはインターナショナルイズム、そして脱ジャンルしながら広がっていくことではないかと思う。

サーカスをテーマにとりあげたために、専門分野からどんどん外れていっている、でもそのためにサーカスを通じて新たな世界への視点を見つけた先駆者たちの本格的な研究を紹介する。この特集から、「サーカス学」の誕生、そして一挙にサーカス学会設立へと持っていきたいと企んでいる。

(発行人 大島幹雄)

【執筆予定者】(変更の場合もありますのでご了承ください)

三原文 幕末に海を渡ったサーカス芸人を追跡、海外で彼らがいかに凄いで芸を披露し、どれだけ評判になっていたかを克明に調査した『日本人登場』(松柏社)にも登場するリズリー先生についての論考を予定。

林史樹 韓国サーカスに一年間在籍、社会的移動をテーマにフィールドワークした民俗学者。この成果は昨年刊行された『韓国サーカスの生活誌』に結実している。

◎この他に、高崎俊夫、大塚仁子、永重法子、大島幹雄、海外のサーカス学者の論考も予定



デラシネ通信社

<http://homepage2.nifty.com/deracine/>